

師走の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様には、益々ご健勝の事とご拝察申し上げます。当県も新型コロナ感染者「O」が 40 日以上続いています。今回は南アフリカ由来の「オミクロン株」が欧州でも確認され、世界各国に緊張が走り株安にも影響したようです。

ところで WHO が命名したこの「オミクロン株」はギリシャ文字のアルファベットの 15 番目で、これまで発見された 13 個目の変異株の順番では「クサイ・XI」となるはずが、習近平の英語表記「XI」と同じになることから飛ばしたようで、中国共産党のご機嫌取りとの批判が出ています。

先月も自衛隊関連行事は皆無でしたが、民間では日常の活動を取り戻しつつあり、11月20日に我々の友好団体である「日本協議会・日本青年協議会結成 50 周年記念大会」のご案内を頂き、東京の明治記念館に出向き「安倍元総理」の講演を拝聴して参りました。

また 11 月 28 日の自民党宮崎県連主催の政経セミナーでは、「高市早苗政調会長」の講演を拝聴し乍ら、難しい話を誠に判りやすく、且つ歯切れ良いご説明にこの人の尋常ならざるを痛感した次第で、人気が高いのも宜なるかなと、改めて「女性総理の実現近し」と考えたところです。

さて今月も小川先生のメルマガの中から、現在一番の「ホットスポット」である台湾海峡有事のニュースの見方を掲載させて頂きますので是非ともご一読下さい。

・台湾有事、米報告書の読み方

またまた台湾有事のお話ですが、17日に米議会の諮問機関「米中経済安全保障調査委員会」による中国に関する年次報告書が公表されて、日本のマスコミがおどろおどろしく報じることになりました。

「米議会の諮問機関『米中経済安全保障調査委員会』は 17 日、中国に関する年次報告書を公表した。報告書は、中国の軍事力強化の結果、台湾侵攻を阻むための米国による抑止力が低下し、『危険な不確実性の時代』に入ったと指摘。また、中国の核戦力は約 10 年で米国レベルに近づき、核兵器の先制使用などの戦略も可能となると警鐘を鳴らした」(18 日付朝日新聞)

そして、マスコミ各社は次のような見出しを掲げ、危機感をあらわにしています。

読売新聞 「中国軍に台湾侵攻の能力」米議会報告書、米軍の抑止力低下に危機感

NHK 米議会 諮問機関 “台湾侵攻への抑止力危険なまでに低下”

フジテレビ 中国 台湾へ軍事侵攻の初期能力保有 米議会の諮問機関が報告書

TBS “中国の台湾侵攻に強い懸念” 米議会超党派諮問機関・年次報告書

しかし、テレビはともかく**新聞の記事の本文**を読むと報告書の狙いなどが明らかになっており、**見出しが「煽り」**に過ぎなかったことがわかります。

「中国側が**米国が軍事介入をしないと判断**したり、習近平（シーチンピン）国家主席がリスクをいとわず**野心的な判断**をしたりする恐れを指摘した。（中略）こうした分析を踏まえ、報告書は米議会に対し、米国による**台湾への武器売却**、多数の対艦ミサイルや弾道ミサイルのインド太平洋への**配備**などを進めるよう提言した」（朝日新聞）

「一方で、『中国軍は**統合作戦や人員の質**に依然として大きな**弱点**がある』とも指摘。台湾侵攻に踏み切れば、米国との軍事衝突に加え、地域内の**貿易や供給網の不安定化**、**国際的な孤立**といった事態を招くため、『近い将来の**台湾侵攻**は依然として**高リスクの選択肢**だ』との見方を示した」（読売新聞）

ここで注目すべきは、「**米軍が介入しなければ**」というくだりで、中国の武力行使を抑止するために米軍の投入を明確にする必要があることを強調していることもわかります。

いまひとつは、**上陸作戦能力**に関して「**初期能力**」と謳っている点です。

これは、2 隻目以降の建造が進む**強襲揚陸艦**によって中国の海軍陸戦隊（中国の海兵隊）が台湾への上陸作戦を行う能力を意味していますが、報告書にある **2 万 5000 人**では台湾軍や来援する米軍と戦って**海岸堡**、つまり上陸の足がかりを築けるかさえ**おぼつかない**ものです。だから「初期能力」なのです。

これまでも書いてきたことですが、台湾を占領するには中国側は **100 万人規模**の陸上部隊を

投入する**必要**がありますが、それを輸送するための 3000 万トン～5000 万トンの**船腹量を確保できません**。台湾本島の**上陸適地**は海岸線の 10%ほどに過ぎないという問題もありますし、中国側には台湾海峡上空で航空優勢(制空権)をとる航空戦力も十分ではありません。

だから、米軍のトップである**ミリー統合参謀本部議長**は「中国が台湾全体を掌握する軍事作戦を遂行するだけの**本当の能力**を持つまでには、**まだ道のりは長い**」として、上院軍事委員会でのデビッドソン海軍大将の「脅威は今後 10 年間で、実際には 6 年で明白になる」という発言を否定したのです。

中国の脅威に正しく備えることと**脅威を煽り立てる**ことは、場合によっては真っ向から対立し、**脅威に備える目を曇らせ**ます。特に世論に影響力を持つ**マスコミと自衛隊 OB** は、その点を心して発言してほしいものです。 (小川和久)

「台湾有事」はイコール「日本有事」で有り、与那国島から台湾まで僅かに 110km、尖閣諸島は約 140km と記憶していますが、大陸間弾道ミサイル等使用せずとも通常の地対艦ミサイルで充分その射程に収まる距離ですし、制空権を争うことになれば正に指呼の間でしかありません。

直近のニュースでは中国空軍の新型空中給油機は今までの 3 倍の搭載能力があるそうで、それらがバシー海峡を通過して太平洋まで進出してくれば、中国空軍戦闘機の活動範囲は飛躍的に延伸するはずで、本当に今のままで大丈夫なのと？ 関係者に聞き返したいくらいです。

また中国海軍陸戦隊が東シナ海において、強襲揚陸艦艇二隻を用い上陸演習を繰り返しているとのニュースには「尖閣奪取」を想定しているのかもと疑心暗鬼に陥りますし、やはり我々は専門家による正確な情報収集とその分析に頼らざるを得ず、その結果を受け入れる決意と覚悟が日本国民に求められていると云う事なのでしょう。

先の総選挙結果は皆様ご存じの通りですが、日本国民の総意は自民党の保守性を疑い乍ら「憲法改正」及び「国防費 2%増額やむなし」の方向に収斂されつつあり、勇気を奮い起こして面舵を切ったとのだろうと考えるのは、決して私だけとは思えません。

いよいよ忘年会シーズンに突入致しますが「WithCorona&NewNormal」を呪文の如く唱え乍ら、マスクを忘れず「ニシタチ」へとお出掛け頂き、何卒呉々もご自愛下さい。

令和3年 12 月 1 日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦